森の会ニュース⑨

MORINOKAI NEWS vol.9

2011年8月1日発行　編集･発行／森の仲間たち

3月11日の東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

I・N・D・E・X

●教員紹介……2～3
●ボランティア報告……4
●新役員の紹介……5
●会員だより、進路状況……6
●ゼミ通信、会計報告……7

教員紹介

［インタビュー］ 地域政策講座 ● 近藤（こんどう） 真（まこと）教授

（2011年6月22日701資料室にて）

▶こんにちは。地域科学部同窓会の森の会の浅井です。会報に先生の近況を掲載させていただきたいと思いまして、お話を伺いたく参りました。よろしくお願いします。
近藤:「こちらこそよろしく。近況ですか。何から話しましょうか。」
▶6月といえば、新しいゼミ生の2年生はもう決まりましたか。
近藤:「はい。2年生の4人が決まりました。男子1名。女子3名です。今年は4月に3年次編入で入った3年生の男子1名がゼミに参加したので、これで、ゼミの総勢は、4年生が4人。3年生が5人。2年生が4人。計13名です。」
▶近藤セミナーのこれまでの卒業生は何人になりましたか。
近藤:「私のもとで、卒論を書いたのは2001年に卒業した第1期生以来、総勢、45人です。大学院やかつての副ゼミも入れるともっと大人数ですが。」
▶皆さん。どんな職業についていらっしゃいますか。
近藤:「公務員が27名で、準公務員や銀行証券関係も入れますと、32人ですから、3／4がいわゆる堅い仕事ということになりますかね。」
▶今年度の4年生も、やはり公務員志望の方が多いのでしょうか。
近藤:「そうですね。4年生の女子3人のうち、2名は公務員志望ですが、1名はロースクールへの進学希望です。4年生の男子1名は、落語の世界へでも行くのでしょうか。今年落研の全国大会で優勝しましてね。策伝大賞をとったのです。芸名を『三流亭今壱』くんと言いましてね、それが面白いのなんのって。私も何度か聞きましたが、同じ噺を何度聞いても大笑いです。不思議ですね。この辺の地元でもファンクラブができて、大変な人気です。落語界のすい星になるかもしれません。ただ私としては無事卒業してくれることを願うばかりです。」
▶先生は最近はどんな研究をされているのでしょうか。
近藤:「今は、原発の違憲性の研究です。今年の8月、ニュージーランド(NZ)の国際学会で『NZと日本の震災対策法と原発問題』について報告する予定なので、英訳をしながら、準備しているところです。場所は首都のウェリントンで、かつて私が留学していたビクトリア大学です。」
▶あらまあ、ニュージーランドですか。私も行きたいくらいです。
近藤:「ニュージーランド学会の一般向けのNZツアーもあるので、興味のある方は私に連絡してください。」
▶そろそろ原稿の紙幅が尽きそうですので、この辺りでおいとまします。ところで、先生はまだまだこの岐阜大学でご活躍くださるのですよね。
近藤:「58才なので定年の65才まであと7年です。」
▶先生、お身体に気をつけて、お元気に研究をお続け下さい。
近藤:「浅井さんもね。皆さんによろしくお伝えください。」
▶いろいろありがとうございました。

あっという間に30分が経過した、楽しいおしゃべりでした。おひげを伸ばされたのは、一昨年、病気で長期入院をされて、いろいろ考え方が変わったためだそうです。また機会がありましたら、その点を根掘り葉掘り伺いましょう。

近藤ゼミでは今年の11月23日に初めてのゼミ同窓会を開くご予定だそうです。ゼミの卒業生の方は連絡を楽しみにお待ち下さいということでした。（浅井彰子森の会会長）

［研究紹介］ 地域政策講座 ● 宮野雄一（みやのゆういち）教授

私の研究テーマは、地域経済学、社会資本論、社会的費用論が中心です。地域経済学の分野では、戦前期大阪の都市形成と地域問題の実態を踏まえた都市計画法等の都市政策の形成過程の研究、戦後の東京一極集中構造の研究等を行ってきました。また東海地域に関しては、長良川河口堰に関する研究を、地域経済学及び社会資本論（社会資本評価論）・社会的費用論の視角から研究してきました。

ここでいう社会資本とは、公共事業のみでなく公企業や公益事業を含む概念です。公益事業は、住民の生活に不可欠な財・サービス（電力、ガス、鉄道等）を供給する事業ですが、民間企業が担い手になっています。また社会的費用論は、私的企業や公共事業・公企業等の公共部門の経済活動の結果生じる社会的被害（環境・公害問題、災害等）の実態、その原因、被害の予防・原状回復・補償等の被害対策を研究します。

以下、社会資本・社会的費用論研究の現代的意義をやや具体的に記します。今回の東日本の大災害は、被災地の防災や生活・生産基盤の社会資本を破壊し、これによって被災者の生命・生活に深刻な被害と影響を与えました。したがって被災地の復旧・復興には、社会資本の再建も必要不可欠です。

このように社会資本は、住民の生活・生命の維持に不可欠な役割をもつと共に、その計画や管理に失敗する場合には、逆に深刻な社会的費用（社会的被害）をもたらします。これも今回の原発（電力の社会資本）事故によって、不幸な形で実証されてしまいました。

社会資本の研究は、この点で社会的費用論の裏付けが必要ですし、また何よりもその計画・建設・管理運営の主体の在り方（とくに住民・国民の参加・関与）を重視する必要があります。今回の一連の災害は、社会資本の計画・建設・管理運営に関する科学と民主主義の欠如という問題点をも、明らかにしたといってもよいでしょう。皆さんも地域の社会資本の在り方を考えていただければ幸いです。

［森の会の皆さんへ］ 地域政策講座 ● 立石直子（たていしなおこ）准教授

「初めまして」の方も多いかと思います。地域科学部に、民法の教員として赴任して3年が過ぎました。卒業生の皆さんは、こんなゼミコンパの写真を見ると、懐かしく感じられるでしょうか？！

さて、3月以来、震災関連のニュースが続いています。皆さんやご家族、知人の方々に被害はなかったでしょうか。心よりお見舞い申し上げます。

私自身は、大学1年生のときに阪神淡路大震災を経験し、自分のなかの価値観が揺るがされた思いがあります。阪神間の大学に通学していた私は、当日の朝も、「出席が厳しい先生だから、何が何でも行かなくては…」と、大学に向かいました。途中で寸断された私鉄の駅から大学まで、歩くこと数時間…。途中の道では、友人の下宿が見当たらず、茫然としました。2日前、一緒に鍋をつついた友人の下宿は倒壊し、二階建てだったはずの建物の代わりに見えたのは、落下した新幹線の高架だったのです。成人式の翌々日のことでした。今にも倒れそうな家々から、風通しに掛けていた豪華な振袖が見えたことを、昨日のように覚えています。

今思うと、大きな自由と少しの責任を手に、大学生活を謳歌していた最中の出来事でした。サークルの顧問、友人、そして友人の家族…、たくさんの方々を失いました。多くの友人が引っ越しを迫られ、ボランティア先では、話をしなくなった小学生と出会いました。当たり前に「在る」ものが失われ、当たり前に「居る」人が突然いなくなる不安と恐怖は測りしれません。

今回の震災直後の卒業式は、例年以上に感慨深いものがありました。卒業式が中止された東北や関東の大学のことを思うと、当たり前に行われるはずの卒業式さえ、卒業生が揃って写真を撮る一瞬さえ、とても愛おしく感じたのです。

ゼミコンパ

これを読む皆さんとは、「地域科学部」を通じて、直接出会ったことがない方とも繋がっている気がします。どうかこの縁を大切に、また、この縁をもとにたくさんの出会いが拓けますよう、こんな時だからこそ願ってやみません。そして、元気なときも、そうでないときにも、出会いの原点である「地域科学部」に遊びに来てください。

［森の会の皆さんへ］ 地域構造講座 ● 南出吉祥（みなみでよしなり）助教

みなさんはじめまして。昨年6月より地域科学部に着任いたしました南出吉祥です。

ようやく1年が過ぎ、徐々に地域科学部での生活にも慣れつつありますが、まだまだ分からないことだらけで、先輩方や学生たちに支えられながら、なんとか日々を過ごしています。

専門は教育学ですが、「教えること」（何をどう伝えるか）というよりは、「育つこと」（どのような場に置かれているか）に主眼を置いた研究をしています。そして対象としては、主に学校を出た後の若者たちの生き方について、さまざまな角度から追っています。とりわけここ数年は、政策的にも実践的にも「若者自立支援」の取り組みが進められつつありますが、その実態は玉石混交で、まだまだ模索の渦中にあります。そこに含まれる可能性と危うさ両面を見据えながら、現場に根差した理論構築を試みています。

同窓会については、実はこれまであまりなじみがない世界だったのですが、学校内外で出会った友人たちとのつながりは、その後の生活においても重要な存在になっています。先日も、20歳前後の頃にどっぷりと浸かっていたバイト先のメンバーと久々に再開し、朝まで呑み交わしたりもしました。そのバイト先でそのまま社員となった者、既に会社の役職についている者、親になり子育ての悩みを抱える者、20代半ばでバンド活動に目覚め、ライブに明け暮れる者など、状況は本当にさまざまですが、当時の雰囲気そのままに、気兼ねなく楽しめる関係は、他にはないものを感じます。

ここ岐阜に来てから、地域のNPOなど市民活動の場において、すでに何名かの卒業生にもお会いしています。地域科学部ができてから、まだ10年ほどの年月だということですが、この先数十年が経ち、どの年代層にもこの学部の出身者が出てくるころには、岐阜はいったいどんな地域になっていますでしょうか。

いずれにしても、「学校だけの付き合い」ではなく、学校を出た後も緩やかに関係がつながり広がっていくという「出会いの場としての学校」がちゃんと機能するよう、地域科学部のスタッフの端くれとして、学校生活の中身を充実させていきたいと思っています。

ゼミ風景

ボランティア報告

第3期生 伊藤（いとう） 健人（たけひと）

「微力は無力じゃない」―きっかけはインターネット上で見かけた言葉。あの3月11日以降、何もできないで日々を送るしかなかった私の心を響かせた。

地震、津波、原発、そして日本中を覆い尽くすような沈滞した空気。自分に何ができるのだろう？　とりあえず義捐金やカンパといったお金の支援は出来る限りで参加したものの、もどかしい思いで変わらぬ日常を過ごしてきた。
そんな中で迎えるゴールデンウィーク。長い連休だけど特に予定も立てていなかった。自粛ムードもあって、自分が携わる旅行業界の仕事は忙しくない。

ニュースや新聞では「ボランティア満員」等という見出しが躍っていた。けれど、よくよく調べてみると、それはあまりにも無責任で一面だけを捉えた報道だった。実態は、「一部地域にボランティアが集中していて、満員の地域もある」だけに過ぎない。特に福島県の沿岸部では、原発と放射能のイメージもあって、まだまだ人手が足りていないということは、ボランティアセンター（VC）のツィッターやブログから容易に理解できた。

正直に言えば、物見遊山ではないにしろ「一度は被災地の様子を見てみたい」という好奇心がなかったかといえば、嘘になる。それでも、微力でも被災地復興に少しでも助けになれるのなら、いいじゃないか。こうして、生涯で初めてのボランティア参加は決まった。

名古屋から出発するNPOや公共団体のバスツアーは定員オーバーだった。5月1日深夜、必要最低限と思われる飲料やパン、菓子類、衣服や寝袋を積み込み、マイカーを走らせること約650キロ。翌朝、福島県いわき市に到着すると、社会福祉協議会が設置するVCへ向かう。ここを選んだのは、愛知県から一番アクセスしやすく、被害の大きさもさることながら、事前連絡等は不要で受け入れているからだ。平日とはいえGW中、朝8時の時点で長蛇の列だった。まず驚いたのは、交通誘導、行列の整理から受付に至るあらゆる場面において、高校生の姿が目立ったことだった（もちろん、地元のボランティア）。

いわき市VCの流れは、9時頃から受付（移動用車両を含め機材の提供や技能の有無を確認。ボランティア保険もVC負担で加入）→マッチング（住民・行政からVCに寄せられる希望を集約、アポイントをとって、5名から多い時は40名のグループを編成。即席リーダーも選出）→派遣・作業（移動は各グループごと、飲料水や軍手はVCからも配布あり）→帰着・終了報告（被災者の負担軽減のため遅くとも16時までに終了）といったシステムだ。

作業内容は、被災家屋のガレキの片づけ、汚泥の除去、引っ越しの手伝い、避難所運営の手伝い、VC運営の手伝いなど多岐に渡る。GW中は最大800名以上のボランティアが集まり、マッチングに時間がかかり、派遣する頃には正午に近くなることもあった。また、雨天時には屋外作業は中止となるため、せっかく集まったボランティアが何も作業をせずに終了、ということもあったそうだが、VCが2次災害防止に腐心しているのがよくわかった。

私が2日間派遣されたある集落の農耕地には、津波により押し流されてきた数十軒分の家財道具や建築資材が、汚泥とともに積み重なっていた。述べ100名を超えるボランティアの作業の結果、ガレキや汚泥の大部分は片付いたが。作業中、ガレキに混じって、各家庭のアルバムや書籍、郵便物等が至る所から掘り出され、言葉を失った。写真は地元住民の方の許可を得て撮影した数少ないものだが、当初はカメラを向けること自体、はばかられる思いがした。また、別の日にお邪魔した、海岸から1キロ程度の米屋さんでは、引っ越しの手伝いをしながら、津波から集落の皆さんがどのように逃げたかを話していただけた。

多くのボランティアと話をした。東京で小さな自動車工場を営む仲間同士はチームワークよく仕切ってくれた。地元出身の学生は偶然、同窓の先輩と再会して盛り上がっていた。遠く山口県から来た男性は、同じ障害を持つ愛知県の男性と一生懸命作業をされていた。金髪にピアスの青年は、近くの工場で夜間勤務しながら、日中はボランティア活動をしているのだという。地元で電気工事をしている男性は、私が愛知県から来たと知ると、「そちらで災害が起きたときには、必ず駆けつけます」と力強く仰っていた。VCスタッフの中で重要な位置には、国内各地の社会福祉協議会から派遣されてきたメンバーも多かった。印象的なのは、奄美大島から派遣されてきたスタッフの「私たちの地元は昨年10月の豪雨被害を受けた時に各地から温かい支援をいただいた。今、その恩返しをするためにここに来ています」という言葉だった。

あれから2か月、震災から4か月。失われたものはあまりにも大きく、復興という言葉もまだまだ具体的な形を現していない。それでも、たった3日間でも確信できた。立ち直ろうと懸命に生きる被災地の人々とボランティアに集まった人々のエネルギーがあれば、きっと大丈夫だということ。「微力」でも集まれば大きな力となる。そして今、自分たちが「変わらぬ日常」を過ごせる、それがどれほど幸せなことかを理解できた。

夏を迎える今、機会を作り、また自分の微力を提供したいと思う。各地域からのボランティア派遣や一般向けのボランティアツアー、東北復興支援ツアー等、旅行会社としてお手伝い出来る仕事もあるのではないかと模索している。実際、お客様の中でも、復興支援を兼ねて東北に研修旅行をしたいというお話をいただいている。
がんばっぺ、いわき！　がんばろう、東日本！

新役員の紹介

第4期生　伊藤（いとう） 悠貴（ゆき）（会計）

森の会の会員の皆様、こんにちは。この度、新しく森の会役員となりました伊藤と申します。この文章を書くことになり、学生時代のことを思い出してみました。卒業して何年も経っているので、さすがに記憶もあやふやですが…。

私は3年次の編入試験を経て、地域科学部に入学しました。様々なカリキュラムの中で特に印象に残っているのが、地域学実習の授業の一環で岐阜市街地調査として岐阜駅周辺再開発・金華校区・芥見東校区のフィールドワークです。この授業では、長年、岐阜に住んでいながら、初めて知った事、改めて思った事がたくさんあり、複雑な思いに駆られました。また、団地に住んでいらっしゃる方を対象とした聞き取り調査、これは当時、初めての経験でしたので、とても新鮮だった事をよく覚えています。お昼に友達と岐阜駅周辺で食べた豆腐料理が、「あの時以上の美味しい豆腐は食べたことがない！」というくらい、今でも心に残っています。思い返せば、懐かしいですね。

懐かしいといえば、第2食堂隣りにあった喫茶店（今はもうありませんが）の店員さんが、とても個性的な方で隠れファンでした。

そんな私は現在、母校である岐阜大学で会計系の仕事をしております。まさか私が大学で働くとは思いもよりませんでした。しかし、卒業後すぐ、運がいいのか悪いのか…面接のお話を頂き、お世話になることになりました。今現在の主な仕事としては、先生方が研究の為、学会等に出張された際の旅費の精算や規模はとても小さいのですが予算の管理をしています。出張や実習が続いて、中々連絡が取れない先生から書類を提出していただくのに手間取ることもありますが、業者への問合せ、バス・電車の路線図や地図と睨めっこ等々、業務上、調べることも多く楽しんでいます。

ついでに言えば、採用当時の所属先の上司（事務長）が地域科学部の設立に事務方として尽力された方であって…縁があったのですね？

そんなこんなで地域科学部を卒業してからも、学部は違いますが、岐阜大学で仕事をし、さらに今回、森の会役員となり、陰ながらサポートする立場となりました。本当に不思議なものです。最後に、このような大役を担うことは初めてで、戸惑いや不安はありますが、微力ながらも、精一杯務めさせていただきます。今後ともよろしくお願いします。

第11期生　吉村（よしむら） 純里（じゅり）（幹事）

はじめまして。

2011年度地域科学部卒業生の吉村純里（じゅり）と申します。生まれも育ちも岐阜県です。就職も岐阜本社の健康食品の会社です。岐阜でのご縁あって、今回、森の会の役員に仲間入りさせていただくことになりました。

入社して3カ月。配属が決まってから、あっという間に1カ月が過ぎようとしています。私は企画営業職に配属が決まりました。私が企画営業を志望したのは、大学時代の1番の思い出である学会発表がきっかけです。いろいろな土地に出かけて、PPTを使って英語で発表をこなす。原稿を理解するために、論文を読み解く。大変な下準備が必要でしたが、その分、達成感は大きくなります。私の会社の営業はノルマがあって、単にモノを売るだけではありません。お客さまに合う製品の提案から製品化、販売方法まで幅広い範囲を扱います。飽きることなく、いろいろなことに挑戦できることが魅力だと感じました。まだまだ新入社員で、社内の書類の作り方・パソコンの操作の仕方などから順番に覚えていかなくてはなりませんが、いつかは自分だけのオリジナル商品を立ち上げて日本を駆け巡りたいと思います。

学生時代に私が学会を達成できたのも、地域科学部の指導教官として温かく見守ってくださった先生方のおかげです。これからはOGとして、地域科学部を応援する立場にあります。陰ながらではありますが、地域科学部を応援しています。そして、少しでも恩返しすることができたらな、と思っています。

未熟者で分からないことだらけですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第11期生　藤井（ふじい） 敬子（けいこ）（幹事）

はじめまして。この度、森の会の役員に就任した藤井敬子です。今年の3月に地域科学部を卒業し、社会人となりました。大学を離れてまだ間もないですが、既に地域科学部で過ごした日々を懐かしく感じています。

今振り返ってみると、多くの友人や先生方と出会い過ごした学生生活は、本当に楽しかったです。大学生活の集大成である卒論制作にあたり、夜遅くまで学校で作業をしたり、休日にも学校に通ったりした日々は、大変でもありましたが、ゼミの仲間と過ごした大切な日々でもありました。共に頑張り笑い合える仲間がいたからこそ、最後までやり遂げることが出来たのだと思います。

学習面以外でも、学部内で声を掛け合い、キャンプに行ったり忘年会を開催したりと充実していました。地域科学部での大学生活は本当に楽しい思い出ばかりです。

そうした学生時代の経験や思い出は今の私の力になっています。とてもいい環境と仲間に恵まれたなあと感じております。このような大学で得た繋がりは学生時代だけのものではなく、社会人になった今も、これからずっと続いていくものだと思います。折角の縁をこれからも繋げていきたいと思っています。

社会人1年目でまだまだわからないことばかりですが、地域科学部としての繋がりに貢献出来るよう、森の会で少しでもお役に立てると嬉しいです。これからよろしくお願いいたします。

会員だより

第7期生　大森 徹治（おおもり てつじ）

平成17年3月に地域科学研究科地域文化専攻（吉田千秋元教授の研究室）を修了した大森徹治です。

私が住んでいる長野県駒ヶ根市は「アルプスがふたつ映えるまち」というキャッチフレーズ通り、中央アルプス（木曽山脈）と南アルプス（赤石山脈）に挟まれた伊那谷にあります。このおかげで晴天であれば二つのアルプスを心置きなく眺望できます。

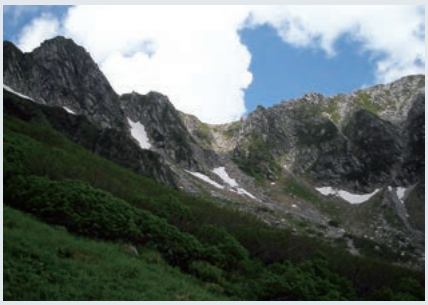
この美しい山並みの他にも、諏訪湖に源を発する天竜川、鉄道ファンや旅行者を魅了するJR飯田線など、観光資源にも恵まれています。

さらにウイスキーファンには幻の一品として知られる「マルスウイスキー」や、全国規模で販売されている「養命酒」の工場もあります。養命酒の工場には「健康の森」が併設されており「森の会」とは「森」つながりですね。

ちなみにパワースポットで知られる分杭峠や、7月中旬から劇場公開の「大鹿村騒動記」の舞台となった大鹿村、お花見の頃には全国に知れわたる旧高遠町の高遠城址（現伊那市）も、駒ヶ根市の隣町ですし、NHKの連続テレビ小説「おひさま」や、映画「岳」のロケ地にもなった松本市（駒ヶ根市内の自動車は松本ナンバーです）も比較的近くにあります。

私は国土交通省天竜川上流河川事務所飯島砂防出張所という国の行政機関にて中央アルプス側の砂防事業のマネジメントに関わらして頂いております。今年はこの伊那谷を襲った未曾有の土砂災害「三六災害」から50年が経ちました。http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/　こんなことから、国民の尊い生命と財産が土砂災害の犠牲とならぬよう、いつも願っている次第です。

それでは、「森の会」の益々の発展と、先生方、卒業生、在校生の皆様の健康と活躍を祈念して近況報告を締めくくりたいと思います。



駒ヶ岳の千畳敷カール

進路状況

学部進路　2011年3月卒業生（2011年5月1日現在:カッコ内は人数で1名の場合は省略）

公務員（27）

愛知県警察(4)
愛知県庁
一宮市役所(4)
岩倉市役所(2)
大野町役場
岐阜県市町村立小中学校事務
郡上市役所
国税庁
辰野町役場
名古屋市役所
名古屋消防局
羽島市役所
碧南市役所
袋井市役所
防衛省（2）
法務省
瑞浪市役所
美濃加茂市役所
八百津町役場

建設・製造業（12）

アピ
伊勢半
市川工務店
小森コーポレーション
タイワ工業
鍋屋バイテック
日鉄東海鋼線
フクビ化学工業
松本義肢製作所
丸平建設
明光ホームテック
山登ゴム

運輸・情報・通信（9）

NDSインフォス
共立コンピュータサービス
JR東海ツアーズ
中日新聞社
中部経済新聞社
東海旅客鉄道
トヨタ情報システム愛知
トヨタデジタルクルーズ
三菱電機インフォメーションシステムズ

金融・保険業（20）

大垣共立銀行(4)
岡崎信用金庫
岐阜県信用農業協同組合連合会
岐阜信用金庫(2)
十六銀行
損害保険ジャパン
第一生命保険(2)
中京銀行（2）
東海東京証券
東京海上日動火災保険
東濃信用金庫(2)
三重銀行

サービス業（6）

岐阜県弁護士会
ジーティーブライダル
j-netレンタリース
ナゴヤキャッスル
VSN
山口敬二法律事務所

医療・福祉・教育業（4）

ウイッツ青山学園高等学校
岐阜大学附属病院
日本赤十字社
社会福祉法人菰野町社会福祉協議会

その他（4）

JAぎふ（2）
JAにしみの
郵便局

進学（8）

岐阜大学大学院地域科学研究科(6)
名古屋大学大学院情報科学研究科
岐阜県立森林文化アカデミー

不動産業（1）

美濃善不動産

卒業者数……117名
就職希望者数……107名
就職者数……197名
進学者数……8名
進路未定者数……12名
就職内定率……90.7%
就職率……82.9%

研究科進路　2011年3月修了生（2011年5月1日現在:カッコ内は人数で1名の場合は省略）

製造業（0）

運輸・情報・通信業（1）

システムリサーチ

金融・保険業（0）

サービス業（1）

マイクロン

修了生数……18名
社会人学生数……2名
就職希望者数……8名
就職者数……5名
進学希望者数……2名
進学者数……1名

医療・福祉・教育業（3）

中国江西省南昌市西湖区疾病控制中心
小牧市立小牧中学校
東京福祉大学（名古屋キャンパス）

その他（0）

進学（1）

横浜国立大学大学院環境情報学府

ゼミ通信-①

津田セミナー

第3期生

中山 智隆（なかやま ともたか）

津田セミナーでは卒業生を中心におよそ半年ごとに集まって旧交を温めています。3年程前には先生の還暦祝いもさせていただきました。今回も、OB名幹事がとてもセンスのよいお店を選んでくださり、3期生、4期生が中心に集まって楽しいひとときを過ごすことができました。

現在の津田セミナーは、男子3名、女子8名の合計11名（大学院生を含む）が在籍しています。日本文化論がセミナー全体の研究分野ですが、日本の神話や音楽をはじめ、武士道や新撰組、自動販売機についてなど、セミナー生の関心事項は多岐にわたります。また、近年はフィールドワークや合宿も行われています。フィールドワークは毎年春と秋に行われ、半日をかけて犬山や大垣といった城下町の散策等をしています。合宿は夏に行われ、昨年は1泊2日で郡上を巡りました。

にぎわしい雰囲気で様々な事柄を研究し、さらにはおカタい座学にとどまらない活動も加わっているようで、卒業生としてはうらやましいかぎりです（津田セミナーの現況については現役のセミナー生に教えていただきました）。

さて、3期生、4期生もアラサーとなり、順調にキャリアを重ねている人、育児に奮闘している人、転機を迎えている人、あいかわらずフラフラしている人と、みなそれぞれの人生を歩んでいるようです。津田先生の「30代は化ける」、「これから10年が勝負」というお言葉が印象的でした。おそらく学生時代にも先生は同じようなことをおっしゃっていたのだろうと思うのですが、現在になってとてもリアルに聞こえるのはおもしろいものです。

最後に蛇足ながら同窓会幹事として個人的な感想を申し上げれば、今回参加したようなアラサー組も地域科学部も、これからの10年間がいちばん伸びる時期なのかなと思います。ようやく「役」がつきつつあるアラサー組が係長、課長クラスになり、現役のセミナー生のみなさんがアラサーになるとき、津田セミナーではどんなコンパが繰り広げられるのか、今からとても楽しみです。

平成22年度会計報告

●収入の部

項　　目	決算額(円)
前年度繰越金	9,708,806
会　　費（10,000円×94名）	940,000
総会会費（1,000円×17名）	17,000
利　　息	1,015
合　　計	10,666,821

●支出の部

項　　目	決算額(円)
事業費	
・知の森印刷・発送	92,925
・森の会ニュース印刷	138,862
・卒業を祝う会援助金	100,000
・その他（大学フェア賛助金）	46,560
通信費	
・郵便代（森の会ニュース発送、料金後納ハガキ）	94,219
事務費	
・事務人件費	123,190
・事務用品費（封筒、タックシール）	35,427
運営費	
・会議費（岐阜大学創立記念行事会費）	3,000
・交通費	57,960
・諸経費	11,175
総会費	
・講師謝礼（総会講演会）	11,111
・懇親会経費	58,569
会費（返金分）	10,000
合　　計	782,998

項　　目	収入の部(円)	支出の部(円)	差引計(円)
次年度繰越金	10,666,821	782,998	9,883,823

帳簿及び証拠書類を監査した結果、上記のとおり相違ありません。

平成23年5月14日

監　査　祖父江 利佳　印

監　査　伊藤 健人　印

地域科学部 こぼれ話…

1997年。地域科学部では「みこし祭」に参加するためのみこし作りが行われていました。

元々、どうして参加することになったのか記憶にありませんが、学務係の皆さんに推されたか、誰かが言い出したのか…

ともあれ、気付いたときには「竹」を生協で購入していました。

何分、一期生しかいませんので、どんなみこしを作って良いものか…

結局、経験者の記憶で購入した竹を切って「井」の形に固定し、上にはダンボールを乗せた、とってもecoな仕上がりになりました。

まだ学部の校舎ができていませんでした（運用は2000年から）ので全面ピンクに塗られたダンボールと隣で掲げるプラカードで目一杯「校舎がほしい！」をアピール。他学部の人がいたり、学務係の方が勝手に祭の法被をレンタルされてたりしたのはご愛嬌、というコトで…

…このお話をご存知の方がどれくらいいらっしゃるのでしょう？

こういった「ちょっとしたイベント」が後輩の皆様に語り継がれないのが地域科学部のステキな伝統だと感じています。

第1期生　浅野（あさの） 善信（よしのぶ）

平成23年度 森の会役員

会　長／浅井　彰子①
副会長／浅野　善信①　石黒　好美①　都築　尚子①
幹事長／加地　和歌子①
幹　事／眞鍋　陽子①　伊藤　雅浩①　中山　智隆③　笠原　正博⑩
　　藤井　敬子⑪　吉村　純里⑪
会　計／荒瀬　修三③　伊藤　悠貴④
監　査／伊藤　健人③　祖父江　利佳①

（○の数字は、期生を表します　例：①…第1期生）

編集会議の様子

森の会 会員数 1,354名
（平成23年4月1日現在）

森の会の皆さま、お元気にお過ごしでいらっしゃいますか。

2011年3月11日は、日本にとって決して忘れることのできない日になりました。皆さまのお暮らしにもさまざまな影響があったことと存じます。そして、お身内やご友人が被災地にいらっしゃる方は、さぞかし心配されたことでしょう。私自身も両親と弟一家が茨城県のつくば市に住んでおりますので、今までに経験したことのない思いを味わいました。

この震災をとおして、私たちは足元を見つめ直すきっかけをもらいました。また、人と人とのつながりの尊さにあらためて気づかされました。

学び舎をともにした仲間とのきずなを大切にしたいと願っています。年1回の会報の発行、同じく年1回の総会・懇親会が活動の中心です。多くの会員の皆さまのご寄稿、ご参加をお待ちいたしております。

ご一緒に森を大きく育てていきましょう。

森の会 会長　浅井 彰子

森の会ニュースでは、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。メールまたは郵送にて下記宛先までお送りください。

連絡先
森の会（岐阜大学地域科学部同窓会）
〒501-1193
岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内
e-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp

森の会アドレスに
簡単にアクセスできます